



カゴノキ [鹿子の木]

常緑 / 中高木 / 木本植物 / 在来種



科名 クスノキ科 (APGⅢ)

特記 生長：普通、雌雄異株

独特の美しい樹肌がよく目立つため、離れた場所からでもカゴノキと分る。樹皮が剥がれ落ちると、跡が白い鹿の子模様になるため樹名もカゴノキ。関東以西の暖地でタブノキやシイ類、カシ類などと混生する。乾燥した斜面や沿海では純林をつくるクスノキ科の常緑樹。



Memo

樹名は、「鹿の子 (かの子) の木」の意。樹皮が小鹿の白い斑点を思わせるところからの命名。

お手入れカレンダー	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
花	期								■				
果	実						(翌年の秋に成熟)			■			
紅	葉												
施	肥	■ (痩せ地でなければ不要)											
剪	定	■					■						■

好みの環境			
日当り	陽	○	陰
土 壤	乾	○	湿
寒 さ	強	○	弱
暑 さ	強	○	弱
潮 風	強	○	弱

観賞ポイント	姿	花	葉	紅葉	黄葉	実	香
	○						○

ポイント

独特の模様の樹皮に魅力があるが、ある程度大きくなると模様は現れない。高木になるので、公園やコモンスペースなど広いスペースがないと納まらない。実は翌年の秋に赤く成熟する。

剪 定

葉を枝先に束生するように付けるため、枝抜き剪定にて樹形を整える。近縁種のハマビワのように鬱蒼 (うっそう) とはならないが高木になる。樹高を抑える場合は、早めに芯止めする。

病虫害

葉に虫こぶができることがある。カゴノキハイボフシと言ひ、フシダニの一種の幼虫が寄生し'虫えい'が形成されたもの。葉ごと除去する。